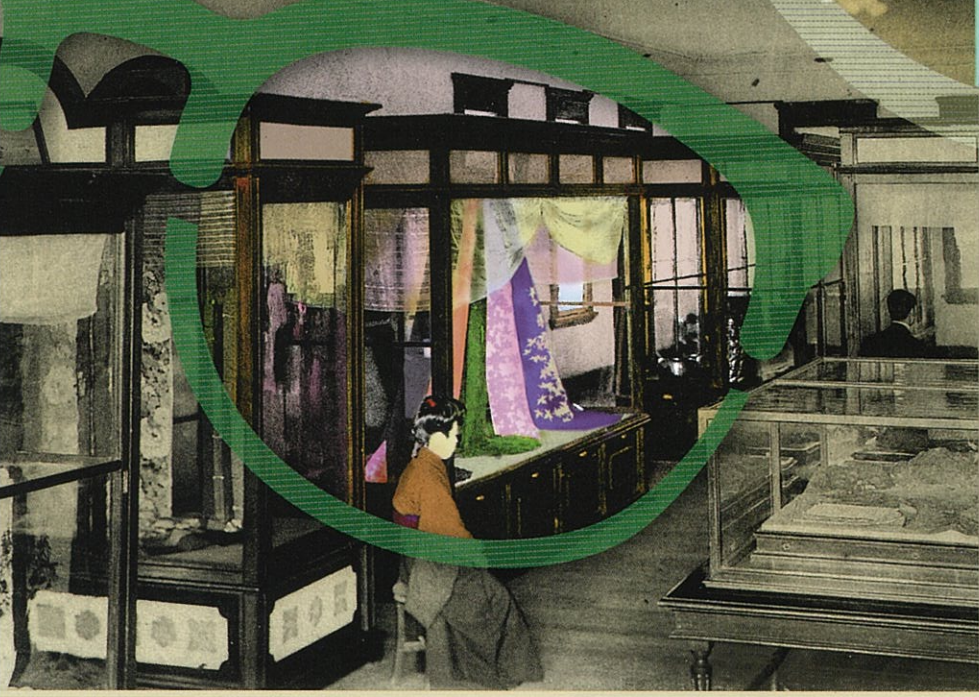
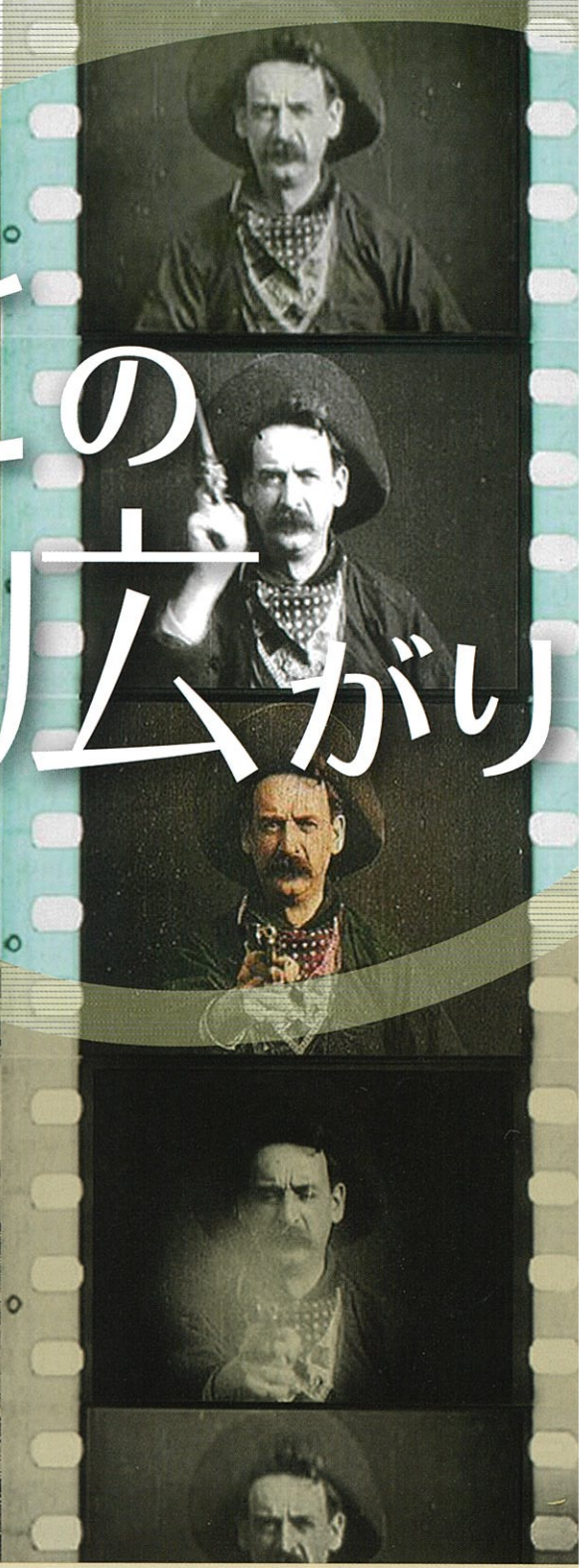


# みることの ～1910-20年代の展覧体験～ 広がり



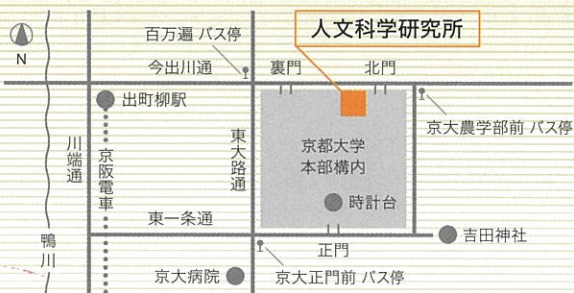
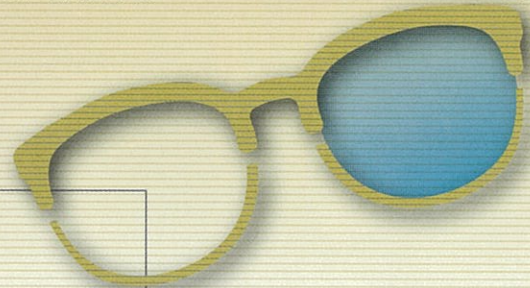
▲滋賀県物産陳列場の内部 絵葉書(個人蔵)

▲劇映画『大列車強盗』(1903)

2019年11月23日(土)

13:30~17:10 聴講無料・事前申込不要

京都大学人文科学研究所 4階大会議室



主催

京都大学人文科学研究所

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

お問い合わせ

京都大学人文科学研究所 総務掛

TEL 075-753-6902 (月~金 9:00~17:00)

mail: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp



<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

1910年代から20年代にかけて、日本人の視覚体験は大きく広がりました。

ショーウィンドーの登場、映画館の普及、物産・商品陳列施設の全国展開、大きな展覧会の開催などにより、芸術作品や商品を日常的に目にする機会が飛躍的に増えたのです。

本シンポジウムは、この時期に一般の人々のさまざまな視覚体験すなわち「みること」が広がった現象を、美術、映画、広告、建築や都市空間といった複数の分野から考察する試みです。

明治末から大正期にかけての展覧・展示の場の実態、そのような場での「みる」「みせる」行為の意味、展覧体験と社会との関係などについて考えます。

## Program

プログラム

- 13:30 - 13:35 趣旨説明 ..... 高階 絵里加
- 13:35 - 14:05 【報告1】 美術趣味の普及 — 初期文展時代の展示と観衆 ..... 高階 絵里加
- 14:10 - 14:40 【報告2】 ショーウィンドーはなにをみせたのか — 黎明期の全国的な流行から考える ..... 竹内 幸絵
- 14:45 - 15:15 【報告3】 「みる」を体験する場 — 商品陳列所という都市施設の役割 ..... 三宅 拓也
- 15:20 - 15:50 【報告4】 複製技術時代の芸術 — 映画を“見る”という体験の多様性 ..... 谷川 建司
- 16:10 - 17:10 【討議】

## Speaker Profile

講師プロフィール

高階 絵里加 京都大学人文科学研究所教授

専門は近代美術史。著書『講座 明治維新 11 明治維新と宗教・文化』（共著、有志舎、2016）、『近代日本の歴史都市—古都と城下町—』（共著、思文閣出版、2013）、『日仏交感の近代』（共著、京都大学出版会、2006）、『異界の海 芳翠・清輝・天心における西洋』（改訂版、三好企画、2006）など。



▲第三回文展 彫刻陳列室 『日展史1 文展編—』（日展、1980年） ▲太平洋画会展覧会場 『美術新報』9-8、1910年6月

竹内 幸絵 同志社大学社会学部教授

サントリーミュージアム [天保山] 学芸員を経て現職。専門は広告史、デザイン史、歴史社会学。著書『近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃』（青土社、2011）、編著『広告の夜明け—大阪・萬年社コレクション研究』（思文閣、2017）。共著に『幻の東京オリンピックとその時代』（青弓社、2009）、『メディア学の現在 [新訂第2版]』（世界思想社、2015）、『大衆文化とナショナリズム』（森話社、2016）など。



▲心齋橋店店頭ショーウィンドーと観覧客（明治40年ごろ：高島屋史料館蔵） ▲京都店（烏丸店）のショーウィンドー、蛭子講売出し（明治40年：高島屋史料館蔵）

三宅 拓也 京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系助教

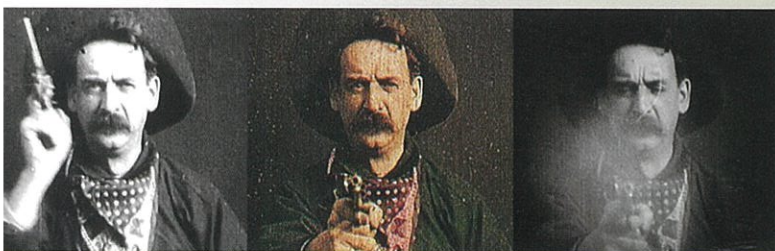
1983年生まれ。京都工芸繊維大学大学院博士後期課程修了、博士（学術）。専門は建築史。東京都現代美術館専門調査員を経て現職。『近代日本〈陳列所〉研究』（思文閣出版、2015年）で全日本博物館学会賞を受賞。著書に『近代京都の美術工芸—政策・流通・鑑賞』（思文閣出版、2019年、共著）『危機の都市史—災害・人口減少と都市・建築』（『都市の危機と再生』研究会編、吉川弘文館、2019年、共著）、『大名庭園の近代』（思文閣出版、2018年、共著）など。



▲京都商品陳列所の陳列室 『京都商品陳列所第一回報告』（京都商品陳列所、1911年） ▲新潟県物産陳列館の陳列室 絵葉書（個人蔵）

谷川 建司 早稲田大学政治経済学術院客員教授

1962年生まれ。映画会社勤務を経てフリーの映画ジャーナリストとして独立。一橋大学で博士号（社会学）を取得。平成9年に第一回京都映画文化賞受賞。平成15年茨城大学助教授。平成17年早稲田大学大学院政治学研究科助教授。平成20年教授。平成22年より現職。主著『アメリカ映画と占領政策』（2002、京都大学学術出版会）、『戦後「忠臣蔵」映画の全貌』（2013、集英社クリエイティブ）、『高麗屋三兄弟と映画』（2018、雄山閣）など。



▲劇映画『大列車強盗』（1903）

次回  
予告

シンポジウム 『愛のディスクール — ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」を読む』

日時 | 12月21日（土） 14:30～18:00  
会場 | 人文研本館セミナー室1

講師 | 松田 浩則 今井 勉 塚本 昌則 森本 淳生 鳥山 定嗣